第３章　戦後の復興と宣教師の派遣（１９４５年～１９６０年）

１節　谷口茂寿師と練馬神の教会の復興

谷口茂寿師夫妻
１９４８年

烈しい戦争は終わった。人々は空襲によって不眠を強いられ、その恐ろしさに脅え、また食料の不足によって餓えに苦しみ、全く疲労困憊していた。終戦は日本の敗北という、悲しい、惨めな結果をもたらしたが、日本人は敗北の悔しさより、長い緊張と苦闘から開放されて、安堵感に近いものを抱いていた。それはやがて虚脱感と変わり、無節操を生み、社会秩序の弛緩と混乱を招いた。

当時の練馬神の教会の会堂は、教会に関係ある人々の荷物で埋まり、牧師館はやはり関係ある人々の中の強制疎開者や被災者が住んでいた。このような状態の中で、ある教会関係の婦人が亡くなり、 清水長晃師の司式のもとに追悼会が行われた。その折、清水師は、「旧本郷神の教会のある人々は、私の集会に出席していて、谷口先生は現在教会を持っていない」と述べられた。そこで、本郷神の教会時代から旧知であった橋本礼子から谷口師に練馬神の教会の指導をしていただくことをお願いして貰うことになった。谷口茂寿師は橋本の懇請を承諾され、その後、橋本の知人である梅内正雄氏（後、練馬区議会議員）宅で家庭集会が行われるようになった。それは１９４６年（昭和２１年）の１月頃のことである。

やがて、この集会は牧師館の一部で行われるようになり、１９４９年頃になると、牧師館や会堂の一角に住んでいた人々も移転したので、谷口牧師家族は牧師館に移り、礼拝および日曜学校の授業は会堂で行われるようになった。

谷口師は当時基督兄弟団に関係していたので、練馬神の教会が日本基督教団を脱退し、基督兄弟団に加盟しなければ、牧師に就任しないと強く主張したので練馬神の教会は、日本基督教団を脱退し、基督兄弟団に加盟した。これ以来練馬神の教会は日本基督教団と関係を絶つこととなった。なお、その後、基督兄弟団からも脱退した。その理由は、谷口師が兄弟団の教理に疑を持ち、その宗教活動の傾向に同意し難いものがあるということであった。

１９４８年　牧師館における婦人会

アーサー・アイキャンプ師夫妻

１９４９年の１１月、アーサー＆ノーマ・アイキャンプ宣教師夫妻が来日された。同夫妻は神田のＹＭＣＡの４階に居住し、練馬神の教会には月２回来て、礼拝説教及び聖書講義を担当された。同夫妻も若かったが、若い学生が多数集会に出席した。

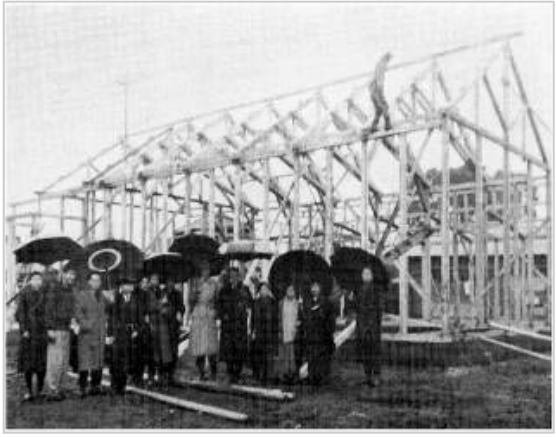
１９５０年７月、アダム・ミラー宣教師夫妻が来日し、練馬神の教会で講演を行った。その際、荒廃した会堂をつぶさに見られた。これより前、アイキャンプ師はアンダーソンのミッショナリー・ボードに練馬神の教会の会堂新設を日曜学校教育のために必要であることを報告していた。ミラー師は現地で実情を視察し、また、練馬神の教会の人々の切実なる新会堂建設への要望を聴取して帰国した。やがて、１５０万円の建築資金がミッショナリー・ボードから送られてきた。

アダム・ミラー師夫妻

１９５１年１月の中頃、雨が静かに降る日であったが、上棟式が行われ、そして、６月２４日に盛大な献堂式が行われた。アイキャンプ師の「我この岩に教会を建てん」という題名のもとに行われた献堂説教は、 会堂を埋めた２００余名の聴衆の魂を揺り動かしたのであった。

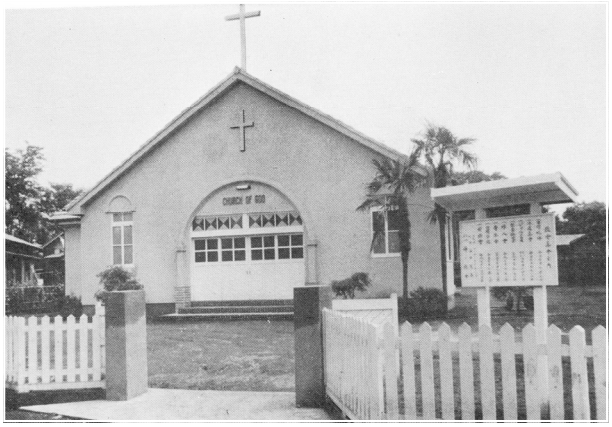
以後、毎年のように伝道集会が行われたが、特に、１９５６年冬に開かれた賀川豊彦師による伝道集会は、会堂に溢れるばかりの聴衆を集め誠に盛会であった。こうして練馬神の教会の会員数は漸次増加していった。

（参考文献 ： 練馬神の教会４０年史）



１９５１年１月上棟式

完成した会堂



２節　清水長晃師と戸山教会の復興

清水長晃師執筆、機関紙「神の教会」１９８１年２月１５日発行、第１３８号「神様が与えてくださった」より全文掲載。

清水長晃師

１９４５年（昭和２０年）４月１３日の空襲で、大塚駅近くにあった豊島教会の会堂が焼失したので、数年間は神田駿河台の清水印刷所の二階集会室で礼拝を守っておりました。１９４９年のある日、日本キリスト教団総務局から電話がかかり、「新宿の戸山ハイツに建設中の公営住宅の敷地内に教会堂を建てる計画があるので、あなたを推薦したいと思うが、どうか」ということでした。

私は直ちに、その日の午後１時に教団事務所に行き、友井禎先生（当時総務局長）と共に東京市建築局（当時は神田橋にありました）を訪れました。

建設局石井桂氏と私はマッカーサー司令部で担当官のバッコー氏にお目にかかりました。幸い私は英語で少々話が出来ましたので、バッコー氏の質問に直接答えることができました。その結果、バッコー氏は石井建設局長に「この牧師に望む場所をあたえよ」と命じました。そこで、私は、石井局長の車で戸山ハイツに直行して、現在戸山教会の会堂が建てられている三百数十坪の土地を権利金も地代も支払わないで貸与されたのであります。正式の書類はずうっと後になって届けられました。当時はアメリカ軍の占領下にあったので、占領軍の命令は絶対でありました。

戸山ハイツは旧陸軍戸山学校の跡地に建てられた公営住宅でありますが、その住宅の家はアメリカ軍が自国の軍人の宿舎として持ってきたものでありました。東京市建設局が戸山ハイツ内にキリスト教の会堂建築を考えたのは、アメリカ軍の好意に対する感謝のあらわれであったのかも知れません。戦時中キリスト教を迫害弾圧した陸軍の戸山学校の中心地（旧将校集会所跡）にキリスト教の会堂が建築されたのは、神さまの不思議な「みわざ」であったと言わねばなりません。

敗戦後の日本の罹災教会の復興のため、アメリカの諸教会より多額の資金が日本キリスト教団に献げられました。その復興資金によって、教団は１００坪以上の敷地を持っている罹災教会に対して１０万円の献金を条件に１００万円の会堂を建ててくださることになりました。けれども、豊島教会の敷地は６０坪でしたから、この恩典にあずかる資格がありませんでした。ところが教団を通して戸山ハイツの敷地三百数十坪が与えられましたので、１０万円の献金をすれば、１００万円の会堂を建てていただけるようになりました。当時としては最高の建築（坪２万円）を希望したために、１００万円では会堂だけしか建てられなくなり、会堂、便所は牧師館を建てる追加工事のときに建てることにしました。しかし、会堂建築の工事が進んであと１カ月余りで工事が完成するという時になっても、追加工事の資金が与えられないので私は途方にくれました。

神さまは無くてはならぬものは必ず与えてくださる、という信仰に立って祈っておりましたが、せっぱつまったぎりぎりの時に、神さまは救いの道を開いてくださいました。アイキャンプ先生が会堂建築中の戸山ハイツにおいでになり、

「自分たち夫婦が会堂の傍に家を建てて住まわせてもらえるならば、米国神の教会ミッショナリー・ボードに資金援助を依頼してあげよう。」と言われました。そこで、建築業者に見積もってもらい、牧師館と会堂・便所が８０万円、宣教師館が７０万円、地下室修理が１０万円、合計１６０万円の援助をアイキャンプ先生を通して、ミッショナリー・ボードへお願いしました。

神さまは、私たちを憐れみ給うて、米国神の教会に属する一教会に働きかけて下さいまして、その教会が外国伝道のために用いてください、といって５，０００ドル（３８０万円）をミッショナリー・ボードへ献げて下さいました。そこへアイキャンプ先生の依頼状が届きましたから、ミショナリー・ボードは直ちに１６０万円を送金して下さいました。米国から現金が届いたものですから、建築業者も私たちの要望にこたえ、突貫工事で牧師館と会堂・便所を３週間で建てあげてくれました。そして、１９５０年（昭和２５年）５月２８日（ペンテコステ聖日）に献堂式を挙げることができました。

献堂なる戸山教会

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

ひとりの子供が持っていた大麦のパン５つとさかな２つで５千人の人々に食をあたえ給うた主イエスの愛のわざを私は信じます。３０年前に無一文だった私たちを憐れみ給うて、すばらしい土地を、会堂を与えてくださった主イエスさまは、今も生きて私たちをかえりみていてくださいます。

「イエス・キリストは、きのうも、きょうもいつまでも変わることがない。」
（ヘブル人への手紙１３章８節）

「神のなされることは皆その時にかなって美しい。」（伝道の書３章１１節）

日本キリスト教団と米国神の教会、両方に対して、私は生きている限り恩義を感じております。アイキャンプ先生が私に言われた言葉が今でも私の心に残っております。「神さまが教団を通して教会敷地と会堂を与えてくださったのです。神さまがアメリカ神の教会を通して１６０万円を与えてくださったのです。与えてくださったのは、教団ではない、米国神の教会でもない、与えてくださったのは神さまですよ。」と。

日本キリスト教団は、正式に戸山ハイツの教会敷地に関する一切の権限を戸山教会に与えて下さいました。　神の教会宣教師会は、戸山ハイツ内の宣教師館を正式に戸山教会に与えて下さいました。

１９５０年５月２８日献堂式

１９５０年７月アダム・ミラー師夫妻を囲んで

３節　宣教師の再来日と相次ぐ教会の開拓

１．宣教師の再来日

アダム・ミラー師夫妻が１９２７年（昭和２年）に米国に帰国して以後、日本には神の教会の宣教師は一人も居なかった。別の表現をするならば、何と２２年間、日本の神の教会運動は日本人牧師のみによって導かれたことになる。

第２次大戦終結後、再び宣教師の入国が認められた。こうして１９４０年後半には欧米の色々な宣教団体から、おびただしい数の宣教師たちが来日した。米国神の教会もこれに漏れなかった。神の教会ミッショナリー・ボードは１９４９年に再び宣教師を日本に派遣した。こうして、日本人牧師達の努力と、新たに派遣された宣教師たちの助けによって、日本の神の教会は第２の成長期を迎えたのである。

（１）アーサー＆ノーマ・アイキャンプ師夫妻

戦後、日本に派遣された神の教会の宣教師の第１号はアーサー＆ノーマ・アイキャンプ師夫妻であった。練馬神の教会７０年史の中で、アイキャンプ師夫妻は１９４９年１１月１９日に日本に到着したと記している。１９８４年３月３１日発行の機関紙「神の教会」の中で、アイキャンプ師は、彼らの来日は、戸山と練馬を助けるためであったと述べている。

アイキャンプ師は２年間に渡り一週交代で練馬と戸山の両教会を回り、説教のご用をすることで彼らを助けた。戸山教会の清水長晃牧師は、アイキャンプ師は集まった日本人達に単に霊的な糧を与えるだけでなく、肉の糧や衣服をを与えるほど親切であったと述べている。

来日したアイキャンプ師夫妻

アイキャンプ師夫妻はまた、谷口茂寿師と共に、神の教会の女子中学、高校である玉川聖学院の設立においても日本神の教会連盟を大きく助けた。学校の設立には莫大な資金が必要だったので、アイキャンプ師が祈っていた時、神は単に学校を作るだけでなくそこに教会を建てるようにと示された。こうして玉川神の教会が誕生した。その後も、日本各地の開拓伝道活動を続けられ、大阪鴻池神の教会（１９６２年１１月）、垂水神の教会（１９７０年１０月）等の建設に労され、１９８４年5月、勲四等瑞宝章を受賞、同年８月に定年で帰国された。

設立時の玉川聖学院

（２）ナーサン＆アン・スミス師夫妻

スミス師夫妻

この時期に来日した第２の宣教師夫妻はナーサン＆アン・スミス師夫妻である。スミス師は宣教師になる以前、進駐軍の軍人として日本に数年駐留したというユニークな経歴を持つ人物である。

軍人として日本に駐留していた時に、彼は日本人の大きな霊的飢え渇きを目の当たりにした。彼は、この経験こそ彼を日本宣教に駆り立てた最大の要素であったと述べている。こうしてスミス師は１９５１年５年にその妻アンと共に宣教師として来日した。彼らは日本の各地で開拓伝道をし、教会を建て上げた。彼らは熱心に伝道し、主は彼らが行く全ての所で会堂を建てられた。スミス師がアンダーソン大学で学んでいた時、アダム・ミラー師はスミス師の指導教授であると共に、ミッショナリー・ボードの局長でもあった。ミラー師はそのような中から、スミス師の日本宣教の情熱に触れ、スミス師と妻のアン師に、日本への宣教師の必要を伝えた。ミッショナリー・ボードとの面談の後、１９５１年４月、彼らは、シアトルから横浜行きの船で日本へと向かった。

こうしてスミス師夫妻は１９５１年５月７日、日本に到着した。同年１２月彼らは東京・立川の新しい家に落ち着き、直ちにそこで日曜学校を始めた。あるクラスはスミス師の家の中で持たれ、別のクラスは天気の良い日には屋外でも持たれた。１９５２年１０月までには教会堂が完成した。彼らが立川に住でいた頃、彼らは五日市町のクリスチャンのグループをも助けた。これ以外にも、立川と五日市の間にはいくつかの小さな町や村があった。スミス師は立川神の教会の日曜学校教師たちによる伝道チームを編成し、これらの町や村での伝道のために派遣した。スミス師夫妻は同じ頃、拝島にある小さな教会を牧会していた、神の教会とつながりのある老牧師と出会ったと述べている。この老牧師は、拝島教会を牧会していた岩城昌一師であると思われる。立川神の教会３０年史の中で、藤田洋師は、岩城昌一師は日本の神の教会における最初の日本人牧師の一人であり、１９７４年９月に召されたと記している。この教会（群れ）は、岩城師の老いと共に消滅したと思われる。

これらの町で、進駐軍の将校らによる日本人向けバイブル・クラス（聖書研究会）がもたれていた。これらの将校たちは時折、アイキャンプ師宅での月に一度の交わり会にも来ていたようである。これらの将校達が日本を離れる時、彼らはスミス師に後を引き継いで欲しいと頼んだ。こうしてスミス師は妻沼と深谷でのバイブル・クラスを指導するようになった。スミス師は妻沼でのバイブル・クラスを金曜日の午後に持ち、土曜日の夕方には深谷でのクラスを導いた。彼は土曜日の夜は深谷市内の宿に泊まり、翌朝早く立川に向けて出発し、立川と五日市での奉仕に日曜日全部を費やした。立川では当時、夕拝も行われていた。機関誌「神の教会」の中でスミス師は、これほど熱心に妻沼と深谷労したにもかかわらず、これらの集会への出席者は非常にわずかであり、時に涙して神に祈ったと述べている。

その後、スミス師夫妻は１９５６年２月、九州での開拓伝道と今宿の小さな群れの指導のために福岡へと向かった。これに先立つ１９５３年の夏休みの間に彼らは福岡の中原一家を訪問した。中原はスミス師を今宿での子供集会のた

めに自宅を開放していた里田夫人に紹介した。これがスミス師夫妻と今宿の群れとの最初の出会いであった。この子供集会は１９５１年にマジョリー・シマリー（後に結婚してマジョリー・ホーキンス）によって始められ、彼女の帰国後は何人かの米軍人と中原や里田といった日本人キリスト者たちによって引き継がれ、１９５１年には田島守人師が初代日本人牧師となって続けられた。

スミス師は１９５６年に今宿郊外の小さな農家を買って住まいとし、同年１月２９日には現在地に今宿神の教会の会堂が完成した（今宿神の教会４０年史）。

スミス師は今宿でも聖日礼拝を始めとして、夕拝、日曜学校教師の訓練等、非常に精力的に活動した。

その後もスミス夫妻は、二日市（１９６１年）、沖縄（１９６２年）、佐賀（１９６３年）と各地で精力的に開拓伝道活動を続け、１９７７年３月をもって日本での２５年余りの宣教活動を終え、韓国への宣教準備のため帰国された。

（３）ドナルド＆アーリーン・ゴーエンズ師夫妻

来日時のゴーエンズ師夫妻

戦後に来日した３番目の宣教師はドナルド＆アーリーン・ゴーエンズ師夫妻である。機関誌「神の教会」第１号によると、ゴーエンズ夫妻の来日は１９５４年８月であった。日本での初期の頃、彼らは東京で日本語学校に通いながら深谷教会を助けた。１９５５年にアイキャンプ師夫妻が一時帰米した１年間、ゴーエンズ師はアイキャンプ師に代わって玉川神の教会の牧師を勤めた。

この後、１９５６年１１月、ゴーエンズ師は深谷に引っ越した。現深谷神の教会太田良一牧師は、「この後まもなくゴーエンズ師は深谷に土地を購入し、１９５７年には教会会堂が献堂された」と述べている。彼らは深谷に住みながら、妻沼教会をも助け、１９５８年１月１９日には妻沼に会堂が献堂された。彼らは、また、１９５０年代後半には他の宣教師や日本人牧師達と共に玉川神の教会で持たれた神の教会夜間神学校でも教えた。

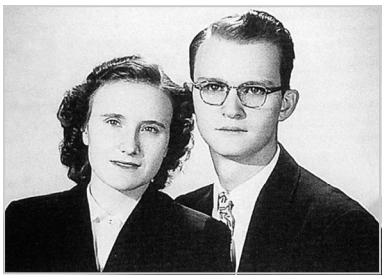
ゴーエンズ師夫妻は１９５９年７月９日、クリーブランド丸で横浜から米国への帰途についた（機関誌「神の教会」１９５９年８号）。

１９６２年沖縄宣教出発の日、深谷教会の皆さんの見送り

ゴーエンズ師が深谷を牧会していた頃、一人の青年が礼拝に出席するようになった。教会に来るようになって１年～１年半後の１９５７年、遂に彼はイエスを受け入れ、「私はキリストに従います」とゴーエンズ師に証しした。この青年は日曜学校その他の集会を指導することによってゴーエンズ師をよく助けた。そして、その年の１１月、青年は主に全てを捧げて献身する決心をした。彼は両親からも親戚からも大きな反対を受けたが、家族も遂に彼と議論することをあきらめた。

１９５９年、彼は埼玉県浦和市にあった聖宣神学校に入学し、その後、数年間深谷と妻沼で奉仕を続けた（機関誌「神の教会」１９５９年８月号）。この青年とは、現在、沖縄天久神の教会牧師(現日本神の教会連盟委員長)の折田政博師その人である。

（４）フィリップ＆フィリス・キンレイ師夫妻



来日当時のキンレイ師夫妻

戦後４番目の宣教師は、フィリップ＆フィリス・キンレイ師夫妻である。キンレイ師夫妻は１９５５年に来日し、神の教会の宣教師の中で、彼らほど長期間日本で奉仕した者は他にはいない。キンレイ師夫妻は、フィリップ師がアンダーソン大学神学部を卒業後、すぐに日本へやって来た。スミス師夫妻が１９５６年に立川から九州に移った時、キンレイ師夫妻は彼らの後任として立川に着任した。

キンレイ師は日曜日の午後、数カ所で日曜学校の分校を開いた。また、立川神の教会において夏期聖書学校をも行った。フィリス師が英語でテキストを書き、他の者がそれらを日本語に翻訳した。ある夏には、彼らは子供達のための夏期聖書学校を４週間行った。

その後もキンレイ師は、立川神の教会以外にも、深谷、玉川、萩山の神の教会牧師を務めた。

神の教会連盟に対するキンレイ師のもう一つの大きな貢献は、神学教育である。１９５５年、玉川神の教会の中に、スミス師、ゴーエンズ師夫妻、谷口師、清水師によって神の教会神学校が開設された（機関紙「神の教会」１９５５年４月号）。スミス師が九州に移った時、キンレイ師がこの学校の責任者となった。この聖書学校は１９６２年にはセミナリー・プロジェクトへと発展した。１９６５年、キンレイ師夫妻はセミナリー・プロジェクト開始に向けて、立川の宣教師館から小金井を経て萩山に移り住んだ。１９６８年に、萩山の宣教師館に隣接してセミナリー・ハウスが建てられ、キンレイ師はその責任者に任命された。これらの他、キンレイ師は１９５９年には神の教会神学校夜間聖書講座でも教えた。この講座は練馬、戸山、玉川教会が持ち回りで会場を提供した。（機関紙「神の教会」１９５９年８月号）

（５）オーロー＆キャロル・クレトロ師夫妻

クレトロー師夫妻

戦後５番目に来日した宣教師はオーロー＆キャロル・クレトロ師夫妻である。機関紙「神の教会」１９６５年第６５号は、クレトロ師は１９３１年に北ミネソタ州の小さな町で生まれたと記している。彼は１２歳の時にイエスを彼の救い主として受け入れた。彼は子供の頃から宣教師になることが夢だった。彼が特に日本宣教に関心を持つようになったのは、既に日本で宣教師として働いていたいとこに当たるフィリス・キンレイ師の影響が大きかった。彼はワーナー・パシフィック・カレジに学び、アンダーソン大学神学部を１９５９年に卒業した後、ヴァージニア州にある小さな教会の牧師になった。その教会を５年間牧会した後、１９６４年にクレトロー師夫妻は二人の娘と共に来日した。彼らの日本での第１期目の主な働きは、本国へ一時帰国している宣教師たちの代わりに東京、垂水、二日市でそれぞれの働きを助けることであった。１９７０年に、クレトロ師は西国立神の教会牧師となり、１９９５年３月まで２５年間にわたり同教会にて奉仕された。

２．宣教師の支援による教会の開拓

（１）岡山赤磐教会

この教会は戦前三河島教会の牧師であった太田琢次郎師が、三河島伝道所が戦災で焼失した後、戦後に郷里伝道として赤磐郡瀬戸町で始めた教会である。太田琢治郎牧師初め教会員一同の熱祷が聞かれて、教団、米国神の教会等からの支援が与えられ、土地が購入され、会堂が建築された。１９５４年（昭和２９年）９月１２日喜びの献堂式をあげた。当日東京より、清水長晃牧師および前川可能牧師夫人が出席され、感謝のうちに式を終えた。敷地６０坪、建坪２５坪、工費８２万円也であった。

１９６３年３月５日、宗教法人が認可される。日本基督教団に所属しつつ、神の教会との交わりを持っていた教会である。機関紙「神の教会」１９６９年１月号は、１９６７年に沖縄天久の折田師と４名の青年たちがこの教会を助けるために赤磐を訪れたことを伝えている。しかし、同誌は、１９６９年にはもはや赤磐ではトラクト配布以外には何の宣教活動も計画されていないと報じている。太田牧師の後継者がいなく、その後は閉鎖された。

（２）今宿神の教会

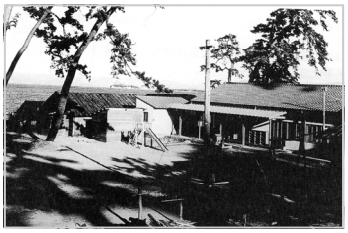
中原千勝西南学院大学教授とミス・シマリー（結婚後、マジョリー・ホーキンス）及び里田美代子（カリフォニニア生まれの二世）の三兄姉によって、今宿教会は生まれた。即ち、１９５１年９月の第１日曜日に里田の自宅で日曜学校が始められたのが、今宿教会のスタートであった。１９５１年１２月ホーキンスは米国へ帰国した。

里田宅にて始まった日曜学校後
前列左から中原、ー、岡部、中原、ﾎｰｷﾝｽ
後列左からﾎｰｷﾝｽ夫人、ー、板屋、ー、
友池の兄姉

１９５１年１１月、田島守人師が今宿神の教会の初代日本人牧師に就任した。この教会の第４番目の主要リーダーとして名前が挙げられる人物は、チャプレン（従軍牧師）として米空軍板付基地に所属していたウィバー師である。

その後、ナーサン＆アン・スミス師夫妻が今宿神の教会に派遣され、教会は大きな成長を見た。１９５６年１月２９日に幼稚園園舎の献堂式が挙げられ、清水長晃師が献堂説教のご用にあたられた。

スミス師夫妻が新しく生まれた佐賀教会赴任のために今宿を去られたので、藤田洋師がその後任牧師となった（１９６０年２月）。



１９５６年献堂時の
今宿教会

（３）立川神の教会

創立頃の立川教会

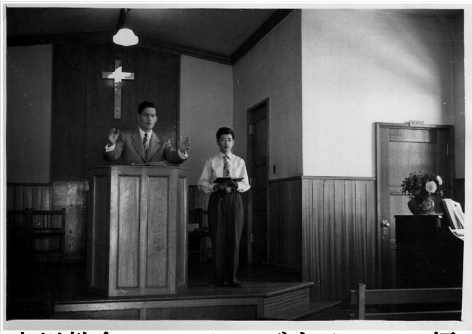
「３０年のあゆみ」によると、草創期の立川神の教会について、以下のように記述している。

この教会はある意味では、立川空軍基地のチャペルで始められたと言える。それは、富士見町に土地が購入され会堂が建てられる数年前のことであった。１９５０年に、１９２２年から２７年までの日本の宣教師であったアダム・ミラー師夫妻が立川を訪れ、チャプレンのジョン・ハードマン師夫妻と聖書研究会のメンバーの何人かに会った。神の教会の信徒伝道者であったハードマン師夫妻は数ヶ月間、基地の日本人従業員のための英語の聖書研究会を指導していた。しかし、ハードマン師夫妻は、１９５１年の半ばに日本を離れなければならないことになっていたので、彼らはミラー師（彼は当時、アンダーソンのミショナリー・ボードの代表であった）に相談した。その時には、基地近辺に日本人の教会が必要であること、そのための指導者が必要であることが話し合われ、さらにハードマン師は、彼のクラスに出席している人たちのうち１０名が最近戸山教会で洗礼を受けたこと、彼らはすぐにでも新しい教会の核になりうることを伝えた。そこでアンダーソンに戻ったミラー師は、ハードマン師夫妻が立川を離れる前に、一組の宣教師夫妻を派遣することを決定した。

１９５１年５月７日、宣教師のナーサン＆アン・スミス師夫妻が来日し、すぐに毎週２回そのクラスの集まりのために、東京から空軍基地へ行き来することになった。ハードマン師夫妻は、スミス師夫妻が到着後、数週間以内に、発たなければならなかったが、チャプレンのモーリス・ファルカーソン師がグループの活動のために協力され、さらに基地外の教会の活動に加わり、柴野氏（富士見町郵便局の元局長）の親切な助力によって、１９５１年の夏、１坪８００円で４００坪の土地を購入し、翌年の春に幼稚園が始まった。

日曜日は、当時の日曜学校の教師たちにとって、いつも忙しい日であった。教室ができるまでは、教師の何人かは、二つの時間帯に分けて教えていた。朝の礼拝に出席し、いそいで昼食をとり、午後からは立川から五日市の間の村々で、子供たちに聖書を教えていた。この時は教師たちは二人一組のチームを三組つくり、スミス師夫妻が運転するステーション・ワゴンでそれぞれの伝道地まで行き、話しをした。残念ながらこの努力からは教会はできなかったが、福音の種はまかれ、教師たちは祝された。

１９５５年の暮れころ、スミス師夫妻は九州に移り、立川神の教会の牧会の責任は、フィリップ・キンレイ師夫妻がとることになった。



立川教会でメッセージするスミス師

五日市伝道、中央、谷口師、清水師、スミス師

（４）玉川神の教会

この教会は１９５２年にアイキャンプ師によって始められた。アイキャンプ師が谷口茂寿師と共に玉川聖学院を設立するために戸山から自由が丘に移り住んで間もなく、米国神の教会は自由ケ丘にあった「日吉学園」を買収し、ミッション・スクール「玉川聖学院」を経営することになり、理事長にアイキャンプ師、院長に谷口茂寿師が就任した。

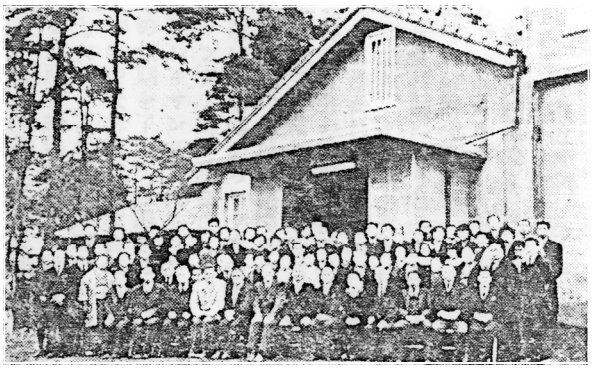
その玉川聖学院の校舎で、アイキャンプ師夫妻は、１９５２年復活節に日曜学校を始め、２週間後に成人礼拝を持たれた。そして、１９５３年１２月１２日に玉川神の教会の献堂式が挙げられた。建築資金は、ミッショナリー・ボートからの多くの献金によった。しかし、アイキャンプ師は、当時、自分の生活もままならない日本の人々の尊い祈りと献金があったこととことを、神は誇りに思っていてくださると回顧している。また、１９５４年、教会活動の中から「玉川子羊幼稚園」も誕生している。アイキャンプ師が１０年間（米国へ休暇で帰国された１年間はゴーエンズ師が牧会）牧師として、教会形成のために労され、１９６２年、アイキヤンプ師夫妻が関西方面の宣教に就かれた後、１９６１年1月フィリップ・キンレイ師を牧師に、千葉明徳師を副牧師に迎えた。

創設された玉川神の教会

（５）久美愛教会

１９４４年（昭和１９年）１月、足立区の南鹿浜で伝道されていた笠井庄之助師は、谷口茂寿師の導きで、埼玉県久美愛の地に移住し、伝道を開始された。当時の教会は精薄児が中心で、一般信徒はわずかであったが、笠井師の「百名を神の国へ」のモットーのもと、聖日礼拝出席は、平均４０名を越すほどに大きく成長した。

１９５５年3月２５日、新会堂の献堂式が教役者２０余名、信徒１１６名の参加を得て盛大に行われた。笠井庄之助牧師を始め教会員一同の熱祷にこたえられ、米国神の教会を初め多くの信徒達の物心共なる協力が与えられて、日本における最初の鉄骨ブロック式建築の堂々たる会堂が完成した。建坪５２坪、総工費２５０万円であつたという。



１９５５年3月２５日献堂式

（６）深谷神の教会と妻沼神の教会

熊谷から東武妻沼線（現東武熊谷線）の終点、ここが妻沼である。戦後間もなく近くの基地にいた軍人が伝道を始め、さらに、スミス宣教師夫妻が開拓伝道に従事した。

１９５２年（昭和２７年）頃、ウエイン・ジョンソン氏（当時は占領軍大尉）は軍務に服する余暇に、キリスト教会のない妻沼町の日本人のために、バイブル・クラスを開いていた。丁度同じ頃、ジョンソン氏の親友は深谷市でバイブル・クラスをもっていた。ところが、両氏とも軍の命令で米国へ帰国しなければならなくなったので、東京にいた神の教会宣教師に後事を託したのである。そこで、当時立川で伝道していたスミス師夫妻が毎週金曜日に妻沼で、土曜日に深谷で集会を持って、その夜遅く立川に帰ることになった。何しろ、この地区は、閉鎖的な町で伝道ははかばかしくなく、困難を極め、スミス師夫妻がそのような大きな犠牲を払われても、集会出席者は少なく、立川の自宅に帰られて、夜もすがら涙を流して祈られたという。

妻沼神の教会前で

１９５６年１１月に、戦後に来日した３人目の宣教師であるゴーエンズ師夫妻が深谷市に移転した。やがて神の教会連盟が力を入れるようになり、現在の深谷神の教会の敷地を購入し、会堂と牧師館が建てられた。

また、妻沼にも敷地が与えられ、赤坂師、ゴーエンズ師夫妻の尽力により、さらに、米国の未亡人アンナ・テン・プリンク夫人の献金により、１９５８年１月に会堂が建てられた。１月１９日に献堂式がゴーエンズ牧師のもと、東京から３０数名が出席し行われた。谷口茂寿師が、「わたしたちの教会堂が与えられて本当に感謝にたえない。妻沼町が福音でいっぱいになり、神の町となることを祈ります。」と献堂説教をされた。

その後、千葉明徳師が遣わされ、約３年間伝道していたが、後、樽井常朝師に引継がれた。樽井師が深谷に移ってからは無牧となった。

（７）西国立神の教会

1956年上棟式

物井保夫は、立川神の教会のために尽くされたジョン・ハードマン氏の立川空軍基地で持たれたバイブル・クラス出席者の一人であった。物井は立川神の教会の日曜学校を教えながら、西国立でバイブル・クラスを持っていたリリアン・ハート夫人の通訳をしていた。そして、米国へ帰国しなければならなくなったハート夫人は、バイブル・クラスの後事を物井に託し、基地の米国軍人や当時立川神の教会の牧師をされていたキンレイ師の協力を得て、１９５６年に西国立駅前に小会堂が建てられたのである。その時以来、物井は、西国立神の教会で伝道活動と共に保育園を経営するようになった。

（８）福岡神の教会（現、福岡弥生教会）

福岡教会は１９５５年に田島守人師が自宅で礼拝を持つことによって始められた。１９５８年、彼らは弥生町に土地を購入し、同年５月１１日会堂落成、５月２９日、キンレイ師夫妻、ゴーエンズ師夫妻を迎え献堂記念礼拝をもった。さらに、１０月２６日には、神の教会連盟委員長谷口茂寿師を招いて献堂式を挙げた。田島師はこの時同教会の初代牧師となった。

１９５６年にスミス師夫妻が九州へ移った時、彼らの主な使命は今宿神の教会を助けることであったが、彼らは英会話教室の指導を通して福岡教会をも助けた。スミス師はこう書いている「私たちは何らかの形で九州の４教会全てに関わった。そして、福岡教会はその中でも最も強いと感じていた。それは恐らく福岡には始めから日本人牧師がいたからであろう。」

１９７４年、田中友敏師が副牧師として福岡に着任し、１年間奉仕した。１９７６年には矢野春海師が協力牧師となり、１９７９年８月に神の教会による按手礼を受けた（機関紙「神の教会」１９７９年９月号）。これに伴い田島師は名誉牧師となり、矢野師は主任牧師となった。しかし、１９８１年３月、矢野師は同教会を辞任した。教会は連盟に新しい牧師を送って欲しいと要請したが、連盟はこの時これに応えることが出来なかった。そこで、彼らは牧師派遣を期待して日本基督教団への加盟を決議した。その結果、同年４月、日本基督教団から荒木総平師が派遣されてきた。これに伴い、福岡神の教会は日本基督教団弥生教会と改称された。彼らは神の教会との交わりは保ちたいと語ったが、両者の関係は次第に希薄になっていった。

（９）岡山神の教会

この教会に関しては、ごく僅かな事しか資料からは見出すことが出来ない。機関紙「神の教会」１９６９年１月号の中で、岡山教会は、岡山県和気郡備前町伊部にある保育園の園舎で日曜礼拝を守っている教会であり、牧師は大橋道之助師であると記している。

(10) 高円寺伝道所

高円寺伝道所は１９４７年、前川忠次郎師の自宅で始められた。１９５０年、ミッショナリー・ボードの援助を受けて、前川師の自宅の近くに新会堂が建てられた。

始めの頃、キンレイ師夫妻がバイブルクラスの指導を通して前川師を助けていたが、今野孝蔵師が前川師からキンレイ師の通訳をするように頼まれてここに集うようになった。今野師にとってそれは神の教会運動との最初の出会いであったと思われる。

高円寺伝道所は１９６２年に前川師が召されたのに伴い、閉鎖となった。

1950年上棟式

1961年2月8日、前川忠次郎師夫妻

４節　玉川聖学院発足

1950年6月、谷口師日吉学園の校長に就任
右から３人目が谷口師、４人目がアイキャンプ師、５人目がミラー師

この学校は１９５０年、アーサー・アイキャンプ師と谷口茂寿師よって設立されたミッション・スクールである。設立に先立つ１９５０年初頭、日本聖書学校の卒業生である篠田氏を通して谷口師に自由が丘にある日吉学園という女子中学・高校を引き受けてほしいという申し出があった。

谷口師は一度は辞退したものの、自身の中には敗戦後の新しい日本の建設のためには信仰に基づく教育が不可欠だとの強い思いがあった。谷口師は６月には日吉学園校長に就任する認可を受けたが、彼は同校をどうしても神の教会のミッション・スクールとして再出発させたいと熱望していた。交渉は困難を極めた。周囲はこぞって反対であったからである。どうしてもミッション・スクールにしたいとの谷口師の願いは、米国神の教会本部を動かすことになり、アダム・ミラー師やアイキャンプ師の協力により、遂には、１年間の試行期間をもって同校を経済的に援助するとの決定をした。こうして１９５０年９月、同校は谷口師を初代校長とする新生玉川聖学院としてスタートしたのである。

試行期間の一年が過ぎた時、米国本部からの返事は、アイキャンプ師が学校の近くで開拓伝道に従事することを条件に同校をミッション・スクールとして承認するとのことだった。

完成なった当時の校舎

こうして一方ではアイキャンプ師による玉川神の教会の開拓が始められ、他方では１９５２年９月に日吉未亡人からの正式譲渡が完了し、アイキャンプ師を理事長とする新しい理事会が発足した。

「谷口茂寿 - 人と信仰」は、神は不思議な方法で、私学経営に全く素人であった谷口師を助けた。教員経験の豊富な助けてとして八代多摩子教頭をはじめとする教員スタッフが備えられ、１９５３年５月には、最も不得手であった財務部門の責任者として岩岡卯吉郎氏が事務長に迎えられたことを記している。

１９５９年８月発行の機関紙［神の教会］は、同校の校舎新築に関して次のような記事を載せている。

「神の教会のミッション・スクールである玉川聖学院では、かねて校舎の新築を企図していたが、昭和３３年１１月着工、本年５月先ずその第１期工事２１０坪を完成した。…アメリカのミッショナリー・ボードおよび日本神の教会連盟からは従来も少なからぬ援助を与えられてきたが、此度の建築についても内外各教会から多大の援助をいただいた。学校ではこの大いなる御恩恵にこたえて、内部的にも、信仰に、学業にいよいよ充実を期し、神の教会ミッション・スクールとして、恥ずかしくない歩みを続けたいと希い求めている。」

５節　種々の夏期集会の開催

初期から続けられてきた連盟修養会に加えて、この時期には青年キャンプ、地区キャンプ等の様々な夏期集会が始められた。機関紙「神の教会」は、１９５５年４月１日に第１号が発行されたが、１９５４年に開かれた第２回の山中青年キャンプ、葉山集会について、次のように記している。

山中湖集会は、８月１０日午後より４日間参加者１１０余名、かってない祝福された集会を持つことができた。

この度は全会を通じての主題を「使徒精神」となし、これにより「神の召命」谷口牧師、「神への応答」田島牧師、「基督者の実践」清水牧師の３講師が一貫して持たれ、参加者一同に深い感銘を与えた。この一連の講演の内に上よりの召命をきき、聖なる使命を感得した者の少なからぬを確信する。

この他各集会が各教会の分担責任で持たれ、一切が青年者自体の力に於いて運営された。かくして譲し出された霊的雰囲気は、麗峰冨士を間近に仰ぐ天然の偉大さと共に、この会を完全に神の御手の内におさめ、参加者会員の霊魂を魅了し去ったことである。すべてをよきに守り導き給うた主に心からの感謝を捧げる。

葉山集会　ついで８月１４日、１５、１６の３日間葉山に於て一般集会が持たれた。事前準備に不備な点があって宿舎が急に予定を変更、３ヶ所に分宿することとなり、いささか出鼻を挫かれた感じがした。今後のよき経験となろう。参加者８０名。聖日の礼拝は田島牧師に、又、聖書講義は谷口牧師によって持たれた。最終日に持たれた協議会は神の教会の年会とも云うべく、日本各地よりの代表者達の参加をえて左記司会者報告通り数々の重要事項が議された。

協議懇談会議題

１．東京都文京区本郷追分町の神の教会堂跡に基督教学生寮の建設を１日も早く実現することを希望する。
２．各教会間連絡機関紙　年４回発行とする。
３．各教会相互に月１回講壇の交換をする。
４．各教会間に平信徒の證しの交換を行うこと。交通費は招待側教会負担。
５．玉川聖学院理事改選の件　　現理事留任。
６．来年度の夏季修養会は山中キャンプ場を申し込むこと。
７．神の教会奨学金制度制定の件

ついで、７月１日発行の第２号では、１９５５年の修養会および青年キャンプについてこう案内している。

箱根連合修養会

これは修養会と共に全神の教会の年次総会を兼ねるものである。場所は箱根山腹快適の地、各地より集まって旧交をあたため新しい聖戦への力を受けよう。

日時　　８月１３日より１５日まで
場所　　箱根中強羅、恵風会館
主題　　教会生活とその実践　－　教会と信徒の使命
会費　　全期（２泊３日）千二百円

山中湖青年キャンプ

日時　　８月１５日より１８日まで
場所　　山中湖ＹＭＣＡキャンプ場
主題　　キリストによる一致
会費　　（３泊４日）千二百円　　他に申込金百円

１９５５年８月１４日　箱根修養会

１９５６年には青年キャンプは８月１３日～１７日正午まで、山中湖ＹＭＣＡキャンプ場で行われ、連盟総会が１７日夕から１８日午後まで、修養会が１８日夕から２０日朝まで箱根、二の平保養園にて行われた。

１９５８年になると、青年キャンプはそれまで同様山中湖ＹＭＣＡキャンプ場で行われたが、引き続いて行われた修養会および総会は御殿場東山荘を会場に行われた。

山中青年キャンプ

１９５９年には箱根湯本と山中湖において３つの大きな集会が行われた。

第７回青年キャンプが８月１２日から山中湖ＹＭＣＡキャンプ場において、また、青年キャンプに先立ち、連盟宗教教育部企画による第１回ジュニアキャンプが山中湖畔の明治学院大学湖北寮で開かれた。この年、連盟修養会と総会は８月１５日～１７日の間、箱根湯元「みどり荘」で開かれた。

機関紙「神の教会」１９６０年第１０号は、１９５９年８月１２日～１５日に山中湖ＹＭＣＡキャンプ場で行われた青年キャンプの最終日、大阪鴻池神の教会神の教会の上出満と山田和子の２名の青年が山中湖でアイキャンプ師から受洗したと記している。同年のキャンプに参加した青年は８８名を数えた。

１００名を超える参加者もあった山中青年キャンプは、１９６７年の第１５回が最後となった。この頃になると結婚、就職等により青年参加の減少が顕著となり、この集会も行き詰った感が深くなってきた。この年は青年キャンプと修養会の合同集会となったが、翌年は修養会と合同で東山荘で行った。

第１７回青年キャンプは、１９６９年７月、清里の「清泉寮」で青年会独自で行ったが、ここに至り諸問題で紛糾し、参加者は４０名足らずとなり、これが最後の集会となった。そして、連合青年会の組織も解散し、連盟全体の組織に合流することとなった。